

技術で豊かなまちづくり

平成18年8月1日

高知土木技士

No.39

(社)高知県土木施工管理技士会 [高知市本町4-2-15 建設会館5F TEL 825-1844]



平成 17 年度表彰 高知県優良建設工事

施 工

株式会社 晃 立

工 事 名

森林基幹道開設事業 下土居桧谷線2工区工事

場 所

高知県吾川郡仁淀川町用居

現場代理人

田 邊 博 則

土木施工管理技士会倫理綱領

会員は、国家資格者として誇りと品格を持ち、
常に自己の資質と技術の向上に努め、
社会に貢献すること。

(誇りを持とう)

1. 土木技術の国家資格者として誇りを持って行動し、日頃から技術の研鑽けんざんに励むこと。

(技術力を活かそう)

2. 技術者として自己の専門的知識及び経験をもって良質な物を作ること。

(公正な行動をしよう)

3. 携わる事業の性質から、公正・清廉たつとを尚び、広く模範となる行動をすること。

(ボランティアに参加する等、社会に貢献しよう)

4. 技術者として知識・経験を活かし、災害時等はもちろん、ふだんの生活においても、地域活動や社会奉仕に積極的に参加するよう努めること。

平成18年度 通常総会

当技士会の平成18年度通常総会が、去る5月11日、高知市の三翠園で開催された。

冒頭宮田会長の挨拶があり、県内各地区から正会員75名（委任状提出会員：1,491名）が出席し、提出3議案の審議が行われ、いずれも原案どおり可決された。

また、通常総会に続いて表彰式が行われ、(社)全国土木施工管理技士会連合会会長表彰の受賞者4名への伝達並びに当技士会会長表彰者19名へ、宮田会長から賞状と記念品が授与された。

この表彰式では、国土交通省四国地方整備局企画部技術管理課長 矢野守様と、高知県土木部副部長 北岡俊雄様から「技術向上への日頃の研鑽・努力への敬意と共に、時世に即応した技術が重視されます」旨の祝辞と併せ、当技士会の活動の重要性、ますますの発展を期待する言葉をいただいた。

総会の概要は、次のとおりです。

総会は定足数報告に始まり、議案の審議に入った。

議事は、第1号議案 平成17年度事業報告並びに同収支決算報告承認の件並びに監査報告

第2号議案 平成18年度事業計画（案）並びに同収支予算（案）承認の件

第3号議案 役員選任並びに承認の件

このうち、第2号議案の事業計画として、会員の土木施工管理技術の進歩を図るため、各種講習会・研修会の実施、継続学習制度（CPDS）の活用による、土木技士の社会的地位の向上と、努力する企業の技術力を適切に評価されるよう取組の強化を図り、一層の当技士会の組織基盤拡充へ土木施工管理技士資格を有する未加入者の入会促進に努めることとしている。

引き続いての表彰式には、お祝辞を頂戴した方以外で、四国地方整備局土佐国道事務所 奥谷所長様、(社)高知県建設業協会 山崎副会長様など11名のご来賓を迎え行われた。



平成18年度 通常総会 会長挨拶

平成18年5月11日（木）
（社）高知県土木施工管理技士会
会長 宮田益吉



挨拶する会長

通常総会の開催にあたりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

本日は、時節柄何かとお忙しいところ、また、遠い所から、本総会にご出席頂き誠にありがとうございます。

また、会員の皆様には平素より当技士会に対しまして、何かとご支援ご協力を頂いておりますこと、重ねて心よりお礼を申し上げる次第であります。

さて、現在の経済情勢は緩やかに回復しているといわれているものの、四国地方は公共投資の減少が続いており、建設業界は厳しい状況にあります。特に本県の建設業を取り巻く環境は、公共事業の削減、低入札受注の続出、ダンピングの増加など、誠に厳しいもので、県内業者の疲弊は著しくどん底にあるといっても過言ではありません。その中で、各企業におかれましては、懸命な経営体質強化に取り組みつつ、非常なご努力を続けられているものと存じます。

このような状況下にある建設業界に対して、常に優れた技術力を維持し、加えて、良質な成果品を創出できる企業体制が、今後、一段と求められるものと思います。

国家資格を有する我々「土木施工管理技士」の果たす役割は、ますます重要になってきているところであります。

技術者の集団であります当技士会といたしましても、組織の強化を図りつつ、会員相互において、質の高い情報を交換し、日頃から継続的に技術の研鑽を重ね、技術者として技術力の向上と社会的地位の確立に努めて、社会に大きく貢献して参りたいと考えております。

本日、総会后、執り行います表彰式におきまして優良工事に従事し、卓越された技術力を発揮されました方々を表彰させていただきます。

最後になりましたが、本日予定されております議案につきまして、よろしくご審議頂きますようお願い申し上げます、開会の挨拶とさせていただきます。



受賞者 記念撮影



表彰式 受賞者

なお、当日の表彰式では(株)全国土木技士会連合会より表彰された役員表彰の伝達並びに当技士会で永年にわたり尽力された方に対する功績会員表彰も行われました。

◎全国技士会連合会各技士会役員表彰～理事及び監事受賞者 (伝達)

- ・西谷 宏志 (理事・広報委員会委員) 藤本建設(株)
- ・田邊 聖 (理事・副会長) (株)田邊建設

◎当技士会功績会員表彰受賞者

- ・田村 昭 (常任理事) (社)高知県森林土木協会
- ・田中 允泰 (常任理事) 田中建設(株)



受賞者 謝辞

技術コーナー

第10回土木施工管理技術論文作品紹介

山林開発における立木処理について

大旺建設株式会社高知本店 大野 聡

1. はじめに

私が担当した工事は、高知県の中西部に位置する高知県高岡郡津野町（旧 葉山村）の、標高1000～1100mの尾根部約5km間に風力発電装置（MWT-1000A）20基を設置するとともに、



高知県吾川郡仁淀川町（旧 仁淀村）に既存する四国電力株式会社大渡発電所までの11km間に連係送電線を設置する、風力発電所建設の設計・施工一括工事である。

建設工事を行った高知県高岡郡津野町鶴松森付近の尾根は東西方向にのびる急峻な地形となっており、尾根を境に北側が仁淀川町、南側が津野町となっている。仁淀川町側の北斜面は、なだらかな緩

斜面、津野町側の南斜面は30～40度の急斜面で、国道から尾根部への連絡道はこの急峻な斜面に張り付く、曲線の多い狭隘な林道である。

工事の概要

- 1) 工事名 (仮称) 葉山風力発電所建設工事
- 2) 発注者 株式会社 葉山風力発電所
- 3) 工事場所 高知県高岡郡津野町鶴松森地内
- 4) 工期 自平成16年2月3日～至平成18年3月31日
- 5) 工事内容：
 - (1) 電気工事・土木工事詳細設計 各1式
 - (2) 風力発電装置設置 20基

(3) 造成工事	21箇所
(4) 林道新設工事	3 km
(5) 既設林道拡幅工事	14km
(6) 送電線架設工事	11km
(7) 送電用鉄塔設置	39基
(8) 変電所建設	1 箇所
(9) 開発区域面積	約120,000m ²

2. 現場における課題・問題点

風車建設に伴う開発区域が広大な面積となる為、開発に伴い発生する伐採木及び根株の処分について、次のような問題点があった。

- 1) 伐採面積が広大であること、伐採面積のうち人工造林が大半を占めていたことから、伐採木及び根株の発生量が非常に多い。
- 2) 近接国道から開発エリアまでは林道（4 m幅員）で結ばれているが、距離が約12kmと長く、見通しの利かないカーブが連続し、また高低差も約1,000mもある急勾配かつ狭隘な道路であり、大型車両の離合場所が殆ど無い状態である。
- 3) このようなことから、伐採木及び根株の搬出と産業廃棄物処理に多額の経費が必要となる。

3. 対応策・工夫改良点

現場における課題・問題点に対し、次の二点について検討を行った。

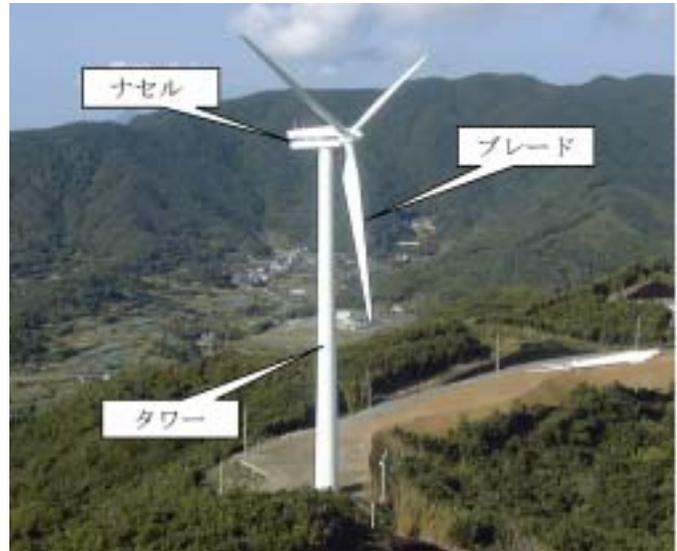
- 開発面積の最小化
- 伐採木及び根株の現場再生利用処分

1) 開発面積の最小化について

開発面積を少しでも削減することが、伐採木及び根株の発生量の削減に繋がることから開発面積の最小化について検討を行った。運搬路（林道の局部改良）については殆ど削減の余地無いものと考え、風力発電装置設置・組立ヤードについて再検討を行った。

- ① 風力発電装置の組立は、風車基礎の施工⇒タワー（柱）の組立⇒ナセル（発電機）の設置⇒ブレード（羽根）の取付けという手順にて組立が行われる。この為、組立ヤードの面積を決定する重要な条件として、ブレード取付け作業時の必要作業面積が組立作業における最大作業面積となる。風力発電装置製造メーカー（三菱重工業株式会社）によるブレード組立ての作業標準では、地上にて3枚のブレードをローターヘッドに

取り付けを行った後、大型クレーン車にて吊り上げ、ナセルに取付ける事となっていた。当工事の場合、設置風力発電装置能力が1,000kwと大きいことから、それに伴いブレードも1枚が約30mと長尺であり、地上にて組み立てる際には半径30mの円が入るような広い面積と、吊り上げる為の550



t吊クレーン車及び100t吊補助クレーン車の設置スペースが必要となってしまう。このようなことから、作業面積の最小化を図るためには、このブレード取り付け作業を1枚ずつ、上空にて取り付ける事が可能であれば、大幅に組立ヤードを小さくすることが可能となり、作業車両も360t吊クレーン車及び高所作業車(69m)での施工が可能となる。

- ② これらをもとに、発電装置製造メーカーと組立作業手順の改善策について協議を重ねた。問題となったのは、上空にてブレードの1枚付けを行う際、安全面からも全てのブレードを水平方向からローターヘッドに取り付ける事が重要で、次のブレードを取り付けるために何らかの動力により60度ローターヘッドを回転させなければならないということであった。組立時には自力でローターヘッドを回転させる能力は持ち合わせていないこと、また、3枚のブレードが取り付けられて初めてバランスが取れるものであり、偏荷重の掛かった状態でのローターヘッドの回転は想定されていなかった。この問題点を解消するため、小型モーターを組み込んだ「組立用ターニングシステム(簡易回転装置)」を製作し、ローターヘッド部に取り付けることにより、ブレードの1枚付けによる施工が可能となり、1箇所あたり20m×40mの面積に抑えることができ、単純に約32,000㎡の削減ができた。

2) 伐採木及び根株の現場再生利用処分について

多量に発生する伐採木及び根株について、廃棄処理ではなく現場において再生利用する方法について、専門工事業者を交え検討を行った。

検討の結果、伐採木及び根株についてチップ処理を行う。この場合に発生したチップ

材は場内において植物誘導工等の法面緑化の為の基盤層として利用できる他、盛土法面に敷設することにより土砂流出防止材として使用でき、将来的にも有機肥料として周辺樹木の栄養素と成っていくなど、廃棄物として処分せずに再生利用材として使用できることがわかった。

これらを踏まえ、再生利用工法採用に伴う、工程及び経費等の具体的検討を行った。

① 工程について

場外への搬出廃棄処理の場合、既設道路が狭隘であることから大型車両同士の離合が難しく、運搬路施工と伐採木搬出を同時期施工については困難であることが予想された。

一方再生利用を行う場合、一定区間ごとに集積場所を定め、集積場所にてチップ処理を行う為、伐採木処理（根株も含む）と運搬路の施工が並行作業で行え、工程の短縮が図れ、また冬季の降雪による作業中断などを考えると並行作業が行えることは魅力的であった。

② 経費について

場外への搬出廃棄処理の場合、運搬費、産業廃棄物処分費、積込み手間を考慮すると1 m³当り12,000円程度となり、約8,640万円の処分費用となる。

当現場においてチップ処理機械一式（破碎機、切断機、収集機）を購入し、チップ処理を行って、再生利用を行う場合1 m³当り6,500円程度が見込まれ、約4,680万円の費用となることから、再生利用をした場合のほうが半分に近い金額での処分が可能となる試算となり、経済的に有利である。

このようなことから再生利用工法を再生したが、発生したチップ材については切土法面部での植物誘導工の基盤層や盛土法面に土砂流出防止材として活用し、作業工程

も想定どおり並行作業により順調に処理を終えることが出来た。チップ処理1ヵ月当りの作業量は920m³であった。実際に発生した木材量と想定発生量に差異は無く、実質7.8ヵ月で作業完了となった。参考であるが、木材切断機械、積込み機械、破碎



機械の3台の組合せで機械購入費用として2,400万円。運転経費として1,700万円を合わせて4,100万円を伐採木及び根株の処理を終えることが出来た。

4. おわりに

大規模な開発工事において、開発面積量を最小限に抑える事は全体工期の短縮を図れると共にコスト縮減の大きな要因となることを、今回の風力発電所建設工事において設計・施工という二面を担当したことから、再認識することができた。また普段深く考えず、工事において発生した産業廃棄物について端的に廃棄処理を行っているが、見方を変えれば今回のように再生資材として十分活用できる材料が発生すれば、有効活用を行なうことが社会環境保全のため重要である。今後工事を管理していく上で視点が増えたことは自分にとって大変有益なものとなった。



完成後の全景写真



おおの 大野 さとし 聡氏 プロフィール

会社名	大旺建設株式会社 高知本店
施工役職	主任技師・監理技術者
学歴	香川県立高松南高等学校農業土木科 卒業
資格	1級土木施工管理技士・測量士補 乙種火薬類取扱責任者 (社)高知県土木施工管理技士会 会員

平成16年度

基幹 第29号 森林基幹道開設事業下土居松谷線2工区工事

株式会社 晃立

土木部 田邊博則

本件工事は、吾川郡仁淀川町(旧池川町)用居地区で、中山間地の基幹産業である林業振興の為に、中央西(旧伊野)林業事務所発注の林道開設工事であり、急峻な地形に幅員 $W=4.0$ m、延長 $L=400.3$ mを施工しました。

工事概要は、切土 $V=12,569\text{m}^3$ 、盛土 $V=1,039\text{m}^3$ 、残土処理 $V=11,530\text{m}^3$ 、擁壁工(路側擁壁) $V=743.4\text{m}^3$ 、U型側溝 $L=379.2\text{m}$ 、ガードレール $L=255.0\text{m}$ 、法面保護工(特殊モルタル吹付工) $A=1,149\text{m}^2$ を施工する工事であります。

現場施工の課題として、自然の景観を損なわない事を念頭におき、①切土施工での対策、②路側擁壁施工での配慮等に留意し、工事に着手することとしました。

① 切土施工での対策について【林道用地外への落石防止対策の創意・工夫】

林道工事である為、第一に留意する点は、急峻な地形の切土施工において、飛散等による林道用地外(民地)及び付随する立木の損傷を考慮すると、強固な落石防止処置が施工中の最も重要な課題でありました。このことに関しては支障木の地権者に十分お願い相談し、立木の伐採高さを標準より高くし、木製防護柵の杭木に利用させてもらう事で、林道周辺の植林を傷つけること無く、無事、切土を完了する事が出来ました。

施工前



木柵設置完了



施工状況



施工完了



② 路側擁壁施工での配慮について

床掘においては、地山の形成をなるべく乱さず丁寧に仕上げ、擁壁完了後の埋戻しラインを鮮明に出せるよう心がけました。

擁壁本体の施工に際して、県内産資材の優先使用の観点から、当工事でも木製型枠の使用が指定されており、施工するにあたっては町内の製材業者に発注し、製作条件として乾燥材の使用、板と板との接合は突き合せで注文した。

現場施工での配慮として、型枠組立の際に、打継箇所の段差、鉛直性及び、勾配に変位が生じないように細心の注意をはらい組み立て、型枠の接合部の空き部分にはバラ板で補助をし、表面の仕上がりにも細心の注意をはらいながら施工しました。

また、曲線箇所は、幅員、拡幅等を考慮しながら、曲線の美しさを追及し施工したことで自分なりに満足できる構造物を作ることが出来ました。

床掘完了



施工完了



最後になりますが、優良建設工事施工者表彰に応募したものの、イメージ的に国道、県道のような派手さが無く、地味で目立たない要素が多いのでアピール度が非常に薄いという観点から、まさか知事賞を受賞するとは思ってもよらない事でした。

今回の受賞の経験を今後も他の工事に反映し、良い製品の提供に一層努力して取り組んでいきたいと考えています。

委員会コーナー

雑

談

技術委員 隅 田 孝 一 (株道路メンテナンス・顧問)

暑中お見舞い申し上げます

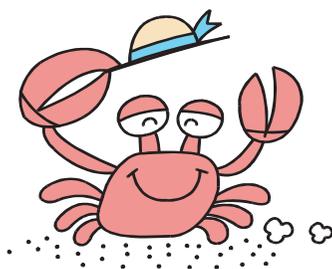
昭和30年に土木技術者見習いとして土木業界に入って、早や半世紀が過ぎようとしています。

この間には色々の困難や失敗の日々であった様に思います。

土木技術は著しい進歩を遂げたと実感しています。しかし、ふり返って考えますと、どうか、例えば「コンクリート」。昔と今を比べるとどうかな？

昭和30年頃は現場練りコンクリートで1：2：4とか1：3：6の〔セメント：砂：砂利の容積比〕現練りであり、締め固めは細長い棒で丁寧につき固め、養生は濡れむしろでおおって完了していた。

その後生コンにと移行してきた。当初は製品にバラツキがあったが、JIS工場の指定を取得し、安定性を増し現在に至る。この生コンをバイブレーターで締め固める効率的であるが安定したコンクリートが出来ると言いきれるだろうか。ふと考えた時に土木施工管理技術試験講習会で話をしたことを思い出した。施工管理とは「良いものを早く安く作る」ことであるが、今のコンクリートがすべての点で勝れていると言えるだろうか。物を作るのは人間であり、現場作業員の努力によると考える。「作業員の皆様ご苦労さま」。この心をいつまでも持ち続けたいと思う今日この頃です。



平成
18年度

1級・2級土木施工管理技術検定試験 受験準備講習会

当技士会では、毎年、(社)高知県建設業協会及び(財)地域開発研究所土木施工管理技術研究会との共催・協賛で、「1級・2級土木施工管理技術検定試験」受験準備講習会を開催しています。

本講習会は、あくまで本試験に合格することを第一目標としています。そこで、講習内容も建設業法に基づいた土木工学・法規等について、テーマごとに出题傾向とポイントを指導説明し、テキストも詳細に解説・解答が加えられた主教材、過去問題も6年～10年分をまとめた集録版に独自資料（非売品）を採用しており、講師については、教育経験豊かな優秀な人材を配し、過去の受講者の方々にも大変好評をいただいております。



18年度1級土木（学科）受験準備講習会

開催日程

- 1級（学科） 5月30日（火）～6月1日（木）
6月6日（火）～6月8日（木）
9：30～16：00 6日間コース
- 1級（学科） 実力テスト 6月17日（土）
本試験と同じ時間設定で、知識・理解力のチェック
- 1級（実地） 8月29日（火）～8月30日（水）
9：00～16：45 2日間コース
- 2級（学科・実地） 9月26日（火）～9月28日（木）
9：00～16：45 3日間コース
- 2級（学科） 実力テスト 10月7日（土）
過去5年間の出题傾向を分析した問題によるテスト

講習会場

- 高知県教育会館「高知城ホール」（高知市丸ノ内2丁目1-10 電話088-822-2035）

第10回土木施工管理技術論文 〔最優秀論文賞〕2年連続受賞なる

(社)全国土木施工管理技士会連合会は第10回技術論文入賞者表彰を5月30日、東京で18年度通常総会の席上で行い、入賞者6名及び技術報告文入賞者2名を表彰した。

今回は、技術論文に40編、技術報告に9編の応募があり、高知県土木技士会会員より3名の応募をみ、最優秀論文賞に前田卓二氏（株）高知丸高が表彰された。

応募者をご紹介します。

標 題	氏 名	会 社 名
仮橋工事における支柱補強材の取付方法の改善	前 田 卓 二	(株)高知丸高
山林開発における立木処理について	大 野 聡	大旺建設(株)
都市高速の床版工事の荷揚げ方法及び資材運搬について	阪 口 貴 史	大旺建設(株)

※全国土木技士会連合会JCMマンスリーレポート7月号へ前田卓二様の論文が紹介されています。

※高知土木技士No.39(会報)へ大野聡様の論文を掲載しています。(7~11頁)

※第11回土木施工管理技術論文・技術報告の募集をします。

会員の皆様が実践されている土木施工管理についての論文や、現場での創意工夫が効率向上等に果した報告です。CPDS(継続学習制度)登録対象で、高いユニット数が付与されます。

締切：平成19年1月22日(月)

原稿提出先：(社)高知県土木施工管理技士会事務局

技士会会員皆様の奮ってのご応募をお待ちいたします。



会員の皆様

暑中お見舞申し上げます。

会長	宮田 益吉	宮田 建設(株)	代表取締役
副会長	田邊 聖	(株)田邊建設	代表取締役
〃	安岡 健	ショーボンド建設(株)	上席理事
〃	土方 猛	ミタニ建設工業(株)	取締役技術部長
常任理事	青木 誠光	青木建設(株)	社長
〃	三谷 斉	入交建設(株)	社長
〃	田村 昭	(社)高知県森林土木協会	専務理事
〃	川島 将夫		
〃	石建国 元	(株)石建組	社長
〃	山中 巨司	明治建設(有)	社長
〃	谷岡 孝雄	(有)タニテクノ	代表取締役
〃	宮田 喜弘	大宮建設(株)	社長
〃	田中 允泰	田中建設(株)	社長
〃	竹村 建司	竹村産業(株)	代表取締役
〃	中山 洋二	中山興業(株)	代表取締役
専務理事	有田 元士	(社)高知県土木施工管理技士会	事務局 長

理事	野村 俊夫	(社)高知県建設技術公社	理事長	理事	大場 智公	福留 開発(株)	代表取締役社長
〃	桑名 正博	高知県高知土木事務所	所長	〃	竹内 修三	(株)竹内建設	代表取締役会長
〃	島田 博仁	〃 中央東土木事務所	所長	〃	嶋崎 勝昭	(株)晃立	代表取締役社長
〃	樫尾 道春	〃 中央西土木事務所	所長	〃	谷 忠勝		
〃	松田 久義	〃 幡多土木事務所	所長	〃	徳原 勝彦	関西土木(株)	常務取締役
〃	山本 啓治	高知市建設下水道部	道路建設課長	〃	西谷 宏志	藤本建設(株)	相談役
〃	西本 篤郎	西本 興業(株)	代表取締役	〃	二沢 正	ミタニ建設工業(株)	常務取締役
〃	岡崎 隆	四国 開発(株)	会長	〃	東山 瑞穂	東山建設(株)	代表取締役
〃	山中 栄広	栄宝 生建設(株)	代表取締役	〃	徳弘 昭宏		
〃	国元 清隆	(有)国元建設	社長	〃	森田 浩三		
〃	吉良 正平	豚座 建設(株)	代表取締役社長	〃	前田 嘉道		
〃	白井 誠	(株)臨海土木	代表取締役	〃	山本周児	(有)手箱建設	代表取締役
〃	竹村 浩	竹村 建設(株)	社長	〃	北村 直人	長香 開発(株)	代表取締役社長
〃	小田 義人	(社)高知県測量設計業協会	会長	〃	吉田 英央	川田建設(株)大阪支店高知営業所	支店付部長
〃	岩市 卓雄	(有)岡村組	所長	〃	尾崎 盛裕	尾崎建設(株)	代表取締役
〃	伊与田 保男	(株)伊与田組	会長	監事	溝渕 淳二	溝渕建設(株)	会長
〃	植村 圭一	須工 と き わ(株)	相談役	〃	垣内 貞文	高知県高知土木事務所	次長

技士会が行う研修・講習会に参加しましょう

技士会伝言板

会員の皆さんへのご案内、ご依頼ごとです。よろしく申し上げます。

土木施工管理技士会の 監理技術者講習のご案内

★ 技士会連合会の監理技術者講習のメリット ★

- ①受講料が従来より安価な10,800円です。
- ②申込書に継続学習制度（CPDS）登録番号を記入するだけで、受講後に技士会の継続学習制度の学習履歴として加点されます。
- ③インターネット（<http://www.ejcm.or.jp>）申込みなら写真・書類の郵送は必要ありません。

1. 受講対象者

公共工事の監理技術者となる方（現場配置前に講習を受講しておくこと。ただし、資格者証の「有する資格欄」に「認定」とされている方（大臣認定者）はこの講習の対象外）

2. 受講料

10,800円（テキスト代・講習修了証交付手数料、消費税含む）

3. 実施日・講習他

平成18年8月17日（木） 平成18年11月1日（水）

平成19年1月18日（木） 平成19年2月15日（木）

講習会会場 高知県教育会館「高知城ホール」 9時00分～16時40分

4. 講習内容

建設工業に関する法律制度（最近の社会・経済情勢と技術者制度）

建設工事の施工管理、その他の技術上の管理

建設工事に関する最近の技術動向等

修了試験（30分） ※修了試験後、講習修了証交付

申込方法

- (1) 受講申込書
 - (2) カラー顔写真を貼った写真票
 - (3) 受講料の郵便振替払込請求書兼受領証のコピー
- ※ 申込書類・(1)～(3)を持参、または「配達記録郵便」で提出

受講申込書提出先

(社)高知県土木施工管理技士会

〒780-0870 高知市本町4丁目2-15 (TEL 088-825-1844)

■ 技士会会員へ新規入会ご案内 ■

高知県における平成17年度の土木施工管理技士検定試験合格者は、1級：236人、2級203人、計439人となっております。合格されました方々に対しましてお祝いを申し上げます。

当技士会は、1980年の設立以来、会員技士の技術力の向上、各企業及び地域に対して貢献する事業活動に努めております。

平成17年度より高知県における建設業者格付認定基準の地域点数の、技術に優れた企業に対する評価の中に、「技術研修の実施」として、土木施工管理／CPDSにおける登録学習単位数を算定方法による値を評価点とされました。

今後さらに、平成17年4月に施行されました公共工事の品質確保法などで謳われておりますように、公共事業はますます受注者の技術能力が求められており、会員企業に対する情報提供、土木技術者の自己研鑽への機会提供等、適切な事業に取り組んで参ります。

技士会の会員に未加入者の皆様、技士会の各事業及び活動にご理解いただき、会員へご入会をいただきますようご案内申し上げます。

入会手続きは、所定の申込用紙により事務局でいつでも受け付けております。

会 員 の 種 類

正 会 員	高知県内に住所または、勤務場所を有する土木施工管理技士であれば、どなたでも入会できます。(公務員、学校、企業等の勤務者を含む。)
賛 助 会 員	本会の目的に賛同し、かつ協力する個人、法人または団体は、賛助会員として入会できます。

※入会についてのお問い合わせは、下記へご連絡下さい。

(社)高知県土木施工管理技士会

〒780-0870

高知市本町4丁目2-15 (高知県建設会館5階)

TEL 088-825-1844 FAX 088-825-1848

E-mail:kochi-gisi@sky.quolia.com